

東北大学災害科学国際研究所 インドネシア・パル地震津波に関する現地調査報告会

2018年9月28日(金)6:02am(日本時間同 7:02am)、インドネシア・スラウェシ島にて、マグニチュード(M)7.5の地震が発生しました。近隣の都市は Palu (人口 33 万人) です。インドネシア気象当局は、地震発生後に津波警報を発表しましたが、島の中部の都市パルなどで破壊的な津波により、多大な被害を出しました。

今村文彦所長は、2018年10月4日～6日、パルほか被災地にて現地調査を行いました。また、所内の地震・津波に関する専門家が、現時点まで得られた情報に基づき分析を行いました。本現地調査および分析結果を報告する会を以下のとおり実施いたします。

日時：2018年10月11日(木) 13:30～14:30

場所：東北大学災害科学国際研究所 1階 多目的ホール

<http://irides.tohoku.ac.jp/access/index.html>

参加：無料・事前申込不要（会場にそのままお越しください）

※報道関係の方は、下記連絡先まで事前にできるだけご連絡ください。

内容（予定）

- 1) 今村文彦所長挨拶
- 2) パル地震を引き起こした活断層について
遠田晋次 教授（災害理学研究部門 活断層研究分野）
- 3) 津波の広域被害把握について－数値解析とリモートセンシング－
マス エリック 准教授（災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野）
- 4) インドネシア・パル地震・津波の現地調査報告
今村文彦 教授（所長、災害リスク研究部門 津波工学研究分野）
- 5) 質疑応答

司会：伊藤潔 副研究所長（災害医学研究部門 災害産婦人科学分野 教授）

<お問い合わせ・報道関係取材申し込み先>

災害研広報室 中鉢・鈴木

電話：022-752-2049 メール：koho-office@irides.tohoku.ac.jp